

1 つぎの文章を読んで問題に答えましょう。

休日の図書館は、紙のにおいとページをめくる音に満ちている。小学生、受験生、親子——利用者はさまざま。では図書館はだれの場所か。答えは「みんなの場所」。だからこそ、全員が心地よく使うためのルールとマナーが必要になる。

ルールは館が定める「必ず守ること」。貸出冊数や返却期限、私語・通話の禁止、飲食の可否などだ。限られた資料や席を公平に分け合うためにある。いっぽうマナーは、書かれていなくても望ましい配慮のこと。通路をふさがない、強い香りを控える、机を長時間占有しない——といったふるまいで、周囲の集中を守る。

図書館を自分の勉強部屋のように独占することはできない。荷物で席取りをしたまま長時間離れるのは、回転を妨げる行為だ。離席時は持ち物を片づけ、館の定める一時外出の方法に従おう。

「静けさ」も共有資源である。児童コーナーやおはなし室は会話前提、学習席はより静けさが必要——場所ごとに期待される音のレベルは異なる。最近では、会話やオンライン学習が可能な「アクティブ・エリア」と、集中読書のための「サイレント・エリア」を分ける館もある。自分の活動に合う場所を選ぶことが、摩擦を減らす近道だ。

スマホやタブレットの扱いにも注意したい。通話は原則禁止でも、資料の撮影が許可される場合はある。ただしシャッター音や打鍵音は周囲の妨げになる。音量を確認し、画面の明るさや角度にも配慮しよう。

資料は図書館の「命」。付せん代わりに紙片を使い、マーカーや折り目は避ける。飲み物が許可される館でも、ふた付き容器を資料から離して置く。返却期限を守ることは、次の利用者の時間を守ることだ。間に合わないときは延長手続きを。

図書館には多様な人が来る。ベビーカーの親子、耳の聞こえにくい人、外国から来た人、高校生、研究

者——背景はさまざま。席をゆずる、エレベーター前を空ける、案内表示をいっしょに確認するなど、小さな配慮が役立つ。困っている人を見かけたら職員に声をかけよう。

行動の基準として三つ覚えておきたい。第一に目的の両立——自分の学習と他者の読書・調べものは同じ価値。第二に可視化された合意——掲示や案内を読み、分かなければカウンターで確認。第三に時間の公平——混雑時の長時間占有を避け、必要に応じて席を譲る。これだけで多くのトラブルは防げる。

図書館員は本を並べるだけではない。質問に答え、必要な情報へ案内するのも大切な仕事だ。検索端末の使い方や書架の並びを知り、迷ったら「このテーマの入門書は？」「この本はどこ？」と気軽に相談しよう。図書館は質問する人を歓迎する場所である。

最後に、ルールは守らせるもの、マナーは自分で選び取るものと確認したい。ページをめくる手を静かに、咳が出そうならマスクを、立つ前には机をさっと拭く——そんな小さな選択の積み重ねが、「みんなの場所」をほんとうにみんなのものにする。今日もだけれど、あなたの静けさに助けられて本を読み、あなたの譲った席で発見をしているかもしれない。図書館が「みんなの場所」であり続けるよう、ルールを守り、マナーを育てる。それが利用者一人ひとりの静かな責任である。



- (1) 次の文の「」に入る最も適切な接続詞を語群からそれぞれ選びなさい。

「図書館は『みんなの場所』である。

「」 「、全員が心地よく使うためのルールとマナーが必要だ。」

「児童コーナーは会話前提、学習席は高い静けさが必要。」 「、自分の活動に合う場所を選ぶことが摩擦を減らす。」

語群

だからこそ／しかし／つまり／それでも

- (2) 次の項目をルール（ル）かマナー（マ）かに分類し、カタカナで答えなさい。

- （ ） 返却期限を守る。
- （ ） マーカーで線を引かない。
- （ ） 通路をふさがないようにリュックを足元に置く。
- （ ） サイレント・エリアでの通話をしない。
- （ ） 強い香りの使用を控える。
- （ ） 館内掲示で禁止された席取りをしない。

- (3) 本文の内容と合っていれば○、間違っていれば×をつけなさい。

（ ） 図書館は特定の人学習を優先できる個人空間である。

（ ） 児童コーナーは子どもの声を前提に設計されている。

（ ） 困っている人を見かけたら、まず職員に声をかけるのがよい。

- (4) 本文で示された「行動の基準」三つを、提示された順番に並べ替えなさい。

ア 可視化された合意（掲示を読み、分からなければカウンターで確認）
 イ 時間の公平（長時間占有を避け、混雑時は席を譲る）
 ウ 目的の両立（自分の学習と他者の読書・調べものは同じ価値）

（ ） ↓ ↓ （ ）

- (5) 筆者が読者に求めている態度（行動の方向性）を25〜35字で述べなさい。

- (1) 次の文の「」に入る最も適切な接続詞を語群からそれぞれ選びなさい。

「図書館は『みんなの場所』である。

「**だからこそ**」、全員が心地よく使うためのルールとマナーが必要だ。」

「児童コーナーは会話前提、学習席は高い静けさが必要。」「**つまり**」、自分の活動に合う場所を選ぶことが摩擦を減らす。」

語群

だからこそ／しかし／つまり／それでも

- (2) 次の項目をルール（ル）かマナー（マ）かに分類し、カタカナで答えなさい。

（ル）返却期限を守る。

（ル）マーカーで線を引かない。

（マ）通路をふさがないようにリュックを足元に置く。

（ル）サイレント・エリアでの通話をしない。

（マ）強い香りの使用を控える。

（ル）館内掲示で禁止された席取りをしない。

- (3) 本文の内容と合っていれば○、間違っていれば×をつけなさい。

（×）図書館は特定の人学習を優先できる個人空間である。

（○）児童コーナーは子どもの声を前提に設計されている。

（○）困っている人を見かけたら、まず職員に声をかけるのがよい。

- (4) 本文で示された「行動の基準」三つを、提示された順番に並べ替えなさい。

ア 可視化された合意（掲示を読み、分からなければカウンターで確認）

イ 時間の公平（長時間占有を避け、混雑時は席を譲る）

ウ 目的の両立（自分の学習と他者の読書・調べものは同じ価値）

（ウ ↓ ア ↓ イ）

- (5) 筆者が読者に求めている態度（行動の方向性）を25〜35字で述べなさい。

解答例

小さな配慮を積み重ね、図書館を皆の場所として保ち続ける。